

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人映像産業振興機構

内容

1.	事業の経過.....	4
2.	主な事業の実施状況.....	4
(1)	人材育成事業.....	4
①	短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2024）	文化庁... 4
②	映画スタッフ育成事業	文化庁... 5
③	映画・映像人材育成事業	京都府... 6
④	クリエイター等育成プログラム「滞在型企画開発」	7
(2)	内外の市場整備事業	8
①	我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金（コ ンテンツ産業の海外展開等支援）（JLOX+）	8
②	コンテンツ活用促進事業	東京都... 18
③	アーカイブ中核拠点形成モデル事業	国立映画アーカイブ... 18
④	全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査.....	19
⑤	令和6年度 文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業（全国キャラバン）	19
⑥	活字文化のグローバル発信・普及事業	文化庁... 20
⑦	海賊版対策事業（日越著作権協力事業）	文化庁... 20
(3)	自主事業.....	21
①	VIP0 アカデミー	21
②	セミナー・ワークショップ事業(有料)	22
③	AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業	24
④	情報サービス事業	24
⑤	VIP0 Film Lab 事業.....	25
⑥	カンヌ 監督週間 in Tokyo 2024.....	27
⑦	VIP0 Film Award	28
⑧	交流促進事業.....	28

(4)	組織運営	29
①	会員の状況	29
②	通常総会、理事会、幹事理事会	29
(5)	広報活動	30
①	「VIP0 年間活動報告書 2023」の発行	30
②	「ndjc2024 合評上映会」のプレス対応	30
③	ホームページの運営	31
④	VIP0 会員とコンテンツ事業者へのメール配信	31
⑤	事業活動の記事露出	32

1. 事業の経過

令和6年度の通常総会（6月24日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

（1）人材育成事業

- ① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2024） 文化庁事業として19年目、35歳までの年齢制限を設けて6年目となる本年度は、37団体より63名（2023年度：33団体より54名）の推薦をいただきました。一次選考にて選出された15名がワークショップに参加し、最終選考の結果、4名の作家が製作実地研修に進みました。脚本開発、演出講義等を経てプロのスタッフ・キャストと共に短編映画制作に取り組み、2月27日に開催された合評上映会にて完成作品を披露しました。

《製作実地研修参加作家／完成作品タイトル》

佐藤そのみ／『スリーピング・スワン』

たかはしそうた／『あて所に尋ねあたりません』

武田かりん／『いちばん星は遠く輝く』

守田悠人／『あわいの魔物たち』

また、3年目となる「長編映画の企画・脚本開発サポート」では、21名の応募者の中から一次選考で選出された13名が最終選考に進み、そこから2名の作家が選出されました。2名の作家は講師による指導のもと脚本開発・パイロット映像の制作を行い、映画製作者に向けたプレゼンテーションに取り組みました。

《選出作家／初稿タイトル》

成瀬都香／『陰キャな(^_^)えーあい』

渡邊裕也／『朝日は当たる』

また、フォローアップとして、本事業にて完成した短編全85作品に対して国内外の映画祭や劇場上映の機会を提供しております。尚、Netflixによるndjc全作品の配信は契約を延長しました。本事業出身監督88名（短編：85名／長編：4名、1名重複）のうち41名が商業長編映画監督デビューを果たしており（未公開作品含む）、なかでも山中瑤子監督『ナミビアの砂漠』はカンヌ国際映画祭「監督週間」に正式出品され、「国際映画批評家連盟賞」を女性監督として史上最年少で受賞する快挙となりました。

《2024 年度以降 ndjc 出身監督 商業長編映画監督作品》

山中瑠子 (ndjc2019) ※商業長編デビュー作品

『ナミビアの砂漠』(2024/9/6(金)公開)

道本咲希 (ndjc2021) ※商業長編デビュー作品

『ほなまた明日』(2024/9/28(土)公開)

金允洙 (ndjc2016) ※商業長編デビュー作品

『あるいは、ユートピア』(2024/11/16(土)公開)

児玉和土 (ndjc2007)

『他人は地獄だ』(2024/11/15(金)公開)

山元環 (ndjc2018) ※商業長編デビュー作品

『この夏の星を見る』(2025/7/4(金)公開)

坂本悠花里 (ndjc2022 長編) ※商業長編デビュー作品

『白の花果』(2025 年公開予定)

② 映画スタッフ育成事業

文化庁

将来の映画スタッフを育成するため、映画制作現場での職業体験を希望する学生をインターンとして、実際のプロの商業映画の現場に受け入れて実習を行う人材育成事業を平成 30 年度より受託、毎年改善を重ねています。予算は前年度より 100 万円減額。2024 年 3 月に米第 96 回アカデミー賞 視覚効果賞を受賞した『ゴジラ-1.0』は令和 3(2021)年度実習作品でした。

【実習実績】2024 年 4 月 1 日～3 月 31 日

実習成立 16 作品(14 社) 学生 40 名 / 作品応募 23 作品 学生応募 65 名

【過去 3 年実績】

2021 : 21 作品(13 社) 49 名

2022 : 15 作品(15 社) 50 名

2023 : 19 作品(16 社) 46 名

【2024 年 10 月以降公開(予定)の実習作品】 ※タイトル情報解禁済作品

『十一人の賊軍』白石和彌 監督 / 『本心』石井裕也 監督

『オアシス』岩屋拓郎 監督 / 『カオルの葬式』湯浅典子 監督

『室町無頼』入江 悠 監督 / 『雪の花 とともに在りて』小泉堯史 監督

『君の忘れ方』作道 雄 監督 / 『35 年目のラブレター』塚本連平 監督

『顔だけじゃ好きになりません』耶雲哉治 監督

『お嬢と番犬くん』小林啓一 監督

『早乙女カナコの場合は』 矢崎仁司 監督
『BAUS 映画から船出した映画館』 甫木元(ほきもと)空 監督
『ぶぶ漬けどうどす』 富永昌敬 監督 / 『遠い山なみの光』 石川 慶 監督
『カラダ探し続編』 羽住英一郎 監督
『ババンババンバンバンパイア』 浜崎慎治 監督

【学生向けオンラインセミナー3回開催 184人参加】

第一線で活躍するプロを講師に迎え 2020 年度から毎年実施。

I. 実習作品『愛に乱暴』公開記念！森ガキ侑大監督特別講座

～企画から公開までの裏側を大公開！～

2024 年 9 月 7 日開催 45 人参加

講師：森ガキ侑大監督、横山蘭平プロデューサー

II. 映画制作のお仕事いろいろ 録音部編

～ 録音・整音・音響効果・サウンドデザインなどなど

2025 年 2 月 20 日開催 91 人参加

講師：録音技師 山本タカアキ氏

III. 映画制作のお仕事いろいろ

～作品の世界観を創り上げる！美術・装飾の魅力

2025 年 3 月 6 日開催 48 人参加

講師：装飾 龍田哲児氏（オリーブアート代表）

【R7 年度】

公募方式が R6 までの企画競争から一般競争入札に変更されました。

予算はほぼ同額で、3/21 の開札にて無事に落札し契約作業中です。

③ 映画・映像人材育成事業

京都府

京都府から、引き続き『京都映画企画市』を受託しました。

本年度の映画企画の応募数は 40 企画となり、過去企画市ファイナリストや ndjc 経験者からの応募もあり、今年は、より企画内容のレベルは上がってきております。その中から 5 企画をファイナリストに選出しました。

審査員は、前年に引き続き、犬童一心監督、映画.com の和田 隆プロデューサーに加え、時代劇製作経験のある東映 須藤泰司ヘッドプロデューサーを迎えました。

コンテストの 3 週間前には、相談員に、オフィス・シロウズ 久保田 傑プロデューサー、RIKI プロジェクト 永井拓郎プロデューサーを迎え、企画

応募者のスキルアップのため企画相談会を実施しました。

10/5 に京都にて開催した企画コンテスト(公開プレゼンテーション)により、本年度の優秀映画企画は『引かれ者の小唄』栗本慎介監督／脚本：島村 隆氏 に決定しました。

パイロット版は、10 月中旬から脚本執筆、2025 年 1 月に松竹撮影所の協力により撮影。犬童監督には脚本と編集をご確認いただき優秀者へのアドバイスをもらい、制作のフォローのフィードバックを実施、3 月に無事に完成しました。

2023 年パイロット版『サバイバル忍者』(馬杉雅喜監督)が 9 月に開催されたジャパンフィルムフェスティバルロサンゼルス(JFFLA2024)にてベストアクションアワード受賞、ブダペスト映画祭にて短編部門優秀賞受賞。

12 月に開催された京都ヒストリカ国際映画祭にて上映&舞台挨拶が行われました。

企画市パイロット版(2016 年度)から初長編化作品の蔦 哲一朗監督『黒の牛』(キャスト：リー・カンション、田中泯、音楽：故・坂本龍一)は、第 37 回東京国際映画祭にて初上映&舞台挨拶が行われました。台湾にて 11 月 8 日より 21 スクリーンで公開。12 月に開催された京都ヒストリカ国際映画祭にて上映&舞台挨拶が行われました。日本公開は 2026 年明けを予定しています。

そして 2017 年度コンテスト出場のファイリスト企画だった安田淳一監督『侍タイムスリッパー』が長編化され、第 48 回日本アカデミー賞 最優秀作品賞・最優秀編集賞を受賞しました。

本年度は、長年続けて来た本事業の成果が出てきていると思われます。

【新規受託事業】

④ クリエイター等育成プログラム「滞在型企画開発」

(独立行政法人日本芸術文化振興会 文化芸術活動基盤強化基金事業、
ユニジャパンより受託)

文化庁の補助金により独立行政法人日本芸術文化振興会に新たに設置された「文化芸術活動基盤強化基金」において、グローバルに活躍できる人材を育成する「クリエイター等育成プログラム」内の「滞在型企画開発」を実施・運営を行う事業。次代を担う若手クリエイター等の人材育成を目的に、海外展開に向けた指導・助言、海外フェスティバル等への派遣や出品、現地関係先とのネットワーク形成の促進、サポート等を行います。

「滞在型企画開発」:

海外でのレジデンスをはじめ、企画・脚本開発の実践を通じたトレーニング等を受けるプログラム（窓口：VIP0）

●事業実施計画と内容

令和6年度（1年目）：

プログラム全体内容の確定、海外協力機関の選定、伴走アドバイザーの決定、参加者の公募～選考～確定～発表、報告書作成等

令和7年度（2年目）：

滞在プログラム準備、事前トレーニングの実施、滞在プログラムの実施、事後フォローアップ、成果発表会実施、報告書作成等

令和8年度（3年目）：

海外映画祭や企画マーケット・ラボへの参加等、成果発表会実施、報告書作成等

●令和6年度実施状況

11月より育成対象者の公募を開始し50以上の応募を受領した。第一次選考（選定委員3名）を経て、11名の二次選考通過者を確定。第二次選考では選定委員3名による書類・面談による審査を実施、英語力確認面談も行っており最終的に4名の育成対象者を確定させた。

育成対象者（監督）：飯塚陽美氏、佐久間啓輔氏、早川千絵氏、山下つばみ氏
伴走アドバイザー4名を選定し内諾を得ている状況。

（2）内外の市場整備事業

① 我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金（コンテンツ産業の海外展開等支援）（JL0X+）

経済産業省 62億円

【補助金事業】

令和5年度「我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金（コンテンツ産業の海外展開等支援）」の事務局を令和6年1月に受託致しました。

・海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援を行う事業
コンテンツが主体となった海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業者に対して、補助金を交付することにより、日本発のコ

ンテンツ等の海外展開を促進し、「日本ブーム創出」を通じた「関連産業の海外展開の拡大」及び「訪日外国人等の促進」につなげることを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和7年3月末までに全件の支払いが完了しました。

・国内映像制作を行う事業（プロダクション・ポストプロダクション支援）

グローバル市場を目指した映像製作には映像制作会社による IP マネージメントや収益確保が重要であり、本補助金は、制作会社が資金調達や IP 活用等に主導・参画し、海外市場に訴求する高品質な映像作品を制作する取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和7年3月末までに全件の支払いが完了しました。

・国内映像企画開発を行う事業（プリプロダクション支援）

グローバル市場におけるコンテンツ投資が拡大しているところ、本補助金は、海外需要獲得を目指す事業者が海外展開を念頭においた高品質なコンテンツ（映像、ゲーム等）の本制作に向け、多様な資金調達やパートナー獲得、クオリティの高い企画・脚本等の開発、契約交渉・資金調達における権利処理を行う取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和7年3月末までに全件の支払いが完了しました。

・海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援

海外映像制作者等による日本国内でのロケ撮影に係る制作費を支援することで、ロケを誘致し、日本国内の人材活用や地域との協力を通じて、映像産業や地域の振興、インバウンドの増加等を促すことを目的とし、日本国

内でのロケ撮影に付随して、ポストプロダクションにおける VFX 等の高度な編集作業を日本国内で行う事業も積極的に誘致することで、日本国内人材のさらなる活用を促し、映像産業の一層の発展を目指しており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 7 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・次世代デジタル技術等を活用したデジタルコンテンツ創出支援

次世代デジタル技術（web3.0（ブロックチェーン技術等）、仮想空間、AI（生成系 AI を含む））をはじめとした技術の活用等によって、個々のクリエイターを支援する環境整備の取組や、我が国発の IP を活用したビジネスモデルの高度化、新たなコンテンツ体験価値の提供を図る取組を支援し、こうした支援により、コンテンツ産業における新たなマネタイズ手法を構築し、産業全体の成長に寄与する先進的な取組を生み出すことを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 7 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・コンテンツ製作の生産性向上に資するシステムの開発・実証支援

コンテンツ業界の DX 支援を行う事業であり、web3.0（ブロックチェーン技術等）、AI（生成系 AI を含む）をはじめとした新たな技術導入等による、コンテンツ製作・流通工程の効率化や強化に資するシステムの開発・実証及び業界内の普及促進の取組を支援し、これにより、コンテンツ産業が持続的に発展するエコシステムを構築し、ひいてはクリエイターをはじめとしたコンテンツ制作者の事業環境の健全化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 7 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

【コンテンツ関連ビジネスマッチング事業】

日本発コンテンツの海外市場における持続可能な収益モデルの構築に資す

るビジネスマッチングモデルの確立を目的とし、複数のコンテンツ分野(映画、アニメ、放送番組、音楽、出版、ゲーム、キャラクターより5分野以上)を対象にしたビジネスマッチング等を実施しました。

I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

1) ファーイースト映画祭 FOCUS ASIA 2024 (イタリア・ウディネ)

Focus Asia 企画マーケット「ALL GENRES PROJECT MARKET」(4月29日～5月1日)

ヨーロッパ最大のアジア映画に特化したファーイースト映画祭に併設されヨーロッパやアジアを中心に世界の業界関係者が集まる「FOCUS ASIA」の企画マーケット「ALL GENRES PROJECT MARKET」に日本から3企画が選出され、内2企画(①『ロストランド』(藤元明緒監督) 参加者: 渡邊一孝プロデューサー、②『ポラリスが降り注ぐ夜』(山中瑤子監督) 参加者: 川島翔一朗氏)を支援しました。FOCUS ASIA 唯一のアワード「TAICCA Co-production Award」では、『ポラリスが降り注ぐ夜』が選出されました。

2) カンヌ国際映画祭 スポットライトアジア (5月14日～22日、フランス・カンヌ)

「カンヌ Spotlight Asia」(5月18日～19日)

「カンヌ Producers Network」(5月15日～20日)

「カンヌ国際映画祭併設マーケット Marche du Film」(5月14日～22日)

世界最大の映画祭併設マーケットであるカンヌ Marche du Filmで実施される「Spotlight Asia」および「Producers Network」に5名のプロデューサー(青山エイミー氏、平松卓真氏、小出大樹氏、加倉井誠人氏、田中栄子氏)を派遣。

3) First Cut Lab+ ピッチ (6月30日～7月2日、チェコスロバキア・カルロヴィ・ヴァリ)

日本映画を対象とした実写長編映画の編集コンサルティングプログラム「First Cut Lab Japan 2023」に参加した『沼影市民プール』(竹中香子プロデューサー/太田信吾監督)が次のステップとなる映画祭戦略や海外配給等の海外展開をサポートする「First Cut+ (プラス)」に選出され、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭で開催されたピッチ・プログラム「First Cut+ (プラス) Summer Edition 2024」に

参加しました。事前のセッションではピッチに役立つ様々な情報やアドバイスを提供され、本番のピッチングでは『沼影市民プール』が日本企画としては初となる「First Cut+ Works in Progress Award」を受賞しました。

4) プチョン国際ファンタスティック映画祭 NAFF IT Project&レジデンスプログラム

「NAFF It Project」(7月6～9日)

「NAFF Fantastic Film School」(7月4～10日)

「レジデンスプログラム (Goedam Residency)」(6月17日～7月15日)

アジア最大のジャンル映画祭であるプチョン国際ファンタスティック映画祭併設企画マーケット「NAFF It Project」に『BAIT』(吉田大八監督、高橋直也プロデューサー)、『闇夜のアンスリウム』(天野千尋監督、小室直子プロデューサー)、『押しボタン症候群』(村上リ子監督、藤田可南子プロデューサー)の3企画が参加。『BAIT』はTAICCAアワードを、『押しボタン症候群』はAsian Discovery Awardを受賞しました。また、プロデューサー育成プログラム「NAFF Fantastic Film School (FFS)」に、小松利紗子プロデューサーが参加。現地滞在中企画ピッチ開発するレジデンスプログラム「Goedam Residency」に、古山知美プロデューサーが参加しました。

5) gamescom ジャパンブース出展 (8月21日～25日、ドイツ・ケルン)

gamescom2024において日本のインディーゲームの海外展開を支援することを目的にジャパンブースを出展しました。出展したのは、Game*Spark Publishing「ウィザードリィ外伝 五つの試練」、とーらい「ほりほりドリル」、WOOL STUDIO「CUBEN ―キューブナー―」の3作品。現地において一般ユーザー向けの試遊だけではなく、海外パブリッシャー等との商談も実施しました。今回のジャパンブース出展によって、Steamのウィッシュリスト登録数の増加や販売本数の増加という成果を得られました。

6) Anime NYC2024 ビジネスマッチング

(8月22日～25日、アメリカ・ニューヨーク)

米国およびその他海外市場に向け、日本のソングライター/アーティストを推進するため、業界注目度の高いアニメコンベンションである

Anime NYC との協業で、米国の PR 会社/マーケティングエージェント/アニメ等映像関連企業等と、日本から選定したボカロ P/ソングライターとのビジネスマッチングを実施しました。2 組のボカロ P（*Luna とニト。）が参加し、企業とのマッチングの他に、楽曲制作やボカロ文化について語るパネルも実施し、148 名が来場しました。

7) Sakura Game Pitch (9 月 29 日、東京)

一般社団法人渋谷あそびば制作委員会との共催でゲームピッチイベント「Sakura Game Pitch」(後援: IGDA 日本、KOCCA) を SHIBUYA SAKURA STAGE の 404 PARK にて開催しました。本イベントには、日本のインディーゲーム 5 作品および韓国のインディーゲーム 1 作品 (KOCCA 推薦作品) が参加し、国内外のパブリッシャーに向けてピッチを行いました。ゲームのパブリッシングやプロジェクトに対する投資を前向きに検討するパブリッシャーも現れて、いくつもの商談が継続中となっています。

8) 釜山国際映画祭併設マーケット「ACFM」内ブース出展、Producer Hub 参加支援 (10 月 5 日～8 日、韓国・釜山)

「ACFM (Asian Contents & Film Market) 2024」にブース出展し、日本映画 4 企画: 『石田徹也』(平林勇監督、勝俣円プロデューサー)、『thatdrive』(山浦未陽監督、大日向隼プロデューサー)、『Hibernation』(深田隆之監督、村上知穂プロデューサー)、『春雷』(須藤蓮監督、村上知穂プロデューサー) が個別ミーティングを実施しました。また、釜山 ACFM が新たに主催・スタートしたアジアでの国際共同製作を目指すプロデューサーのためのネットワークプログラム「プロデューサーハブ」に日本からプロデューサー 3 名<吉原裕幸、佐藤菜穂美、藤田可南子>の参加を支援しました。

9) 釜山ストーリーマーケット (BSM) 出展&ピッチ (10 月 5 日～8 日、韓国・釜山)

釜山国際映画祭併設 Busan Story Market において、昨年同様 ACFM とパートナーシップを結び、出版物の映像化を目指して KADOKAWA、講談社、徳間書店、日米出版、早川書房、Vesuvius Pictures の 6 社が Japan delegation として参加。6 社は 4 日間で計 193 件の商談を行いました。

10) A-JAPAN : GENRE ビジネスマッチング

(10月8日～12月31日、オンライン)

ハリウッドを中心とした北米でのTVドラマシリーズ化等、映像化を目指す日本IPを紹介することを目的としたA-JAPANの第4弾。今回は、ハリウッドが現在最も注目しているジャンル（ホラー、サスペンス、SF、アクションなど）に焦点を当て企画を募集しました。過去最多の応募数の中から、幅広いジャンルがベースの4つのIPのピッチトレーラーやピッチデッキ等を製作し、北米のプロデューサーや脚本家に向けてセールスしすべてのIPに映像化に向けた興味が示されました。参加IPは、映画「サユリ」（ジェンコ）、ドラマ「あと3回、君に会える」（関西テレビ放送）、小説「十字架のカルテ」（ストレートエッジ）、その他1作品。

11) ソングライティングキャンプ in タイ vol.2

(10月21日～24日、タイ・バンコク)

音楽クリエイターの支援の一環として、日本と海外の音楽クリエイターの共同作業によるコーライトセッションをタイ・バンコクにおいて実施しました。日本人6名が、タイ・台湾・マレーシア・シンガポール・ラオス・フィリピン・インドネシアの8つの国と地域から参加した音楽クリエイターと楽曲制作を行い、15曲が制作されました。制作された楽曲はタイ側の音楽業界関係者、アーティスト、レコードレーベル等にピッチングされアジア発のヒット曲創出を目指しました。

12) Billyrrom（ビリーロム）@TIMMショーケースライブ

(11月6日～7日、東京)

海外での日本の楽曲・アーティストの普及を促進することを目的とし、6人組バンド、ビリーロムが海外の有力バイヤーからの注目度が高い東京国際ミュージックマーケット（TIMM）におけるショーケースライブにてパフォーマンスを披露し、商談エリアでは海外バイヤーやフェス関係者とのミーティングを行いました。ネットワーキングにおいては、今後の海外展開の足がかりとなる貴重なコネクションを築く機会となりました。

13) Asian Animation Summit (AAS) 2024 企画ピッチ

(10月19日～21日、台湾・台北)

北米最大のキッズエンタテインメント向け産業見本市である「Kidscreen Summit」の主催者が、アジア・オセアニア地域で開催する企画ピッチイベント。事前に5回程度設定されたオンラインメンタリングセッションでは、作品内容のブラッシュアップからピッチングのデリバリングまでメンターによる細かな指導が行われました。会場ではアジア地域からだけでなく欧米からも集まるプロデューサーや放送事業者に対してピッチングを行い、個別のフォローアップミーティングで多くのプロデューサーらから企画参加への興味が示されました。参加企画は、「NINPO SASUKE」(ファンワークス)、「おたすけこびと (英語仮題: Tiny Helpers in stop motion)」(dwarf studios)。

14) First Cut Lab Japan 2024 (2024年12月3日～18日)

日本映画を対象に編集ステージにフォーカスした包括的な実写長編映画の編集コンサルティングワークショップ。選出された作品と制作チーム(監督/プロデューサー/編集者)には、編集段階における作品の芸術的可能性と商業性を開拓するための創造的で挑戦的なセッションが提供され、参加者らと共に新しい視点を模索しました。ワークショップでは、参加者から提供される最新の英語字幕付き粗編集版(First Cut)について、経験豊かなアドバイザー、編集コンサルタントおよび国際的な映画業界のメンターらから専門的なフィードバックを受け、ワークショップ終了後は、さらなる編集/完成に向けての指針となるワークショップのレポート/ロードマップが参加者に提供されました。参加した2企画は『LOST LAND』(藤元明緒(監督・編集)、渡邊一孝(プロデューサー))、『Renoir(ルノワール)』(早川千絵(監督)、Anne Klotz(編集)、水野詠子(プロデューサー))。

15) ATF×TTB アニメーションラボ&ピッチ

(12月3日～6日、シンガポール)

シンガポールにて開催されたアジア最大級のコンテンツマーケット Asia TV Forum & Market (ATF)にて行われた「ATF×TTB Animation Lab & Pitch 2024」へ企画を推薦。本プログラムでは、ATFとTies That Bind (TTB)が協力し、ファイナリストに選ばれたアジアとヨーロッパのアニメーション9企画によるピッチセッションを開催。ピッチセッションに備え、9企画のプロデューサーは、事前にオンライン

プログラムと現地でのエキスパートからの講義等に参加しました。日本代表として、Mimoid が参加しました。

16) Rotterdam Lab2025: 若手プロデューサー参加支援

(2月1日～5日、オランダ・ロッテルダム)

「ロッテルダム国際映画祭」の企画マーケット「CineMart」の一部として実施されている「Rotterdam Lab」に VIPO 推薦の若手プロデューサー2名<佐藤菜穂美 (CyberAgent, Inc.) 藤田可南子 (Felis Pictures Ltd.) >を派遣しました。

17) Berlinale Co-Production Market Visitors Programme 参加支援

(2月14日～17日、ドイツ・ベルリン)

ベルリン国際映画祭併設の国際共同製作マーケット Berlinale Co-Production Market の一部として実施されている「ビジュアルプログラム」に VIPO 推薦のプロデューサー3名、吉原裕幸 (株式会社 BIG RIVER FILMS)、吉岡フローレス亜衣子 (Kingyo Films)、古市あきほ (合同会社プリズムピクチャーズ) を派遣しました。また、在ドイツ日本大使館主催の「Japan Night」に参加。ドイツ国内外の映画関係者の前でピッチを行いました。

18) 韓国映像化 IP ビジネスマッチング

(2月18, 19, 26, 27日、オンライン)

韓国の映像制作会社4社 (B.A. Entertainment、BIG OCEAN ENM、BULLDOZER STUDIO、MIZI FILM) に日本の小説・コミック・ライトノベルなどの原作や映画・ドラマなどのリメイク権を売り込むことを目的としたビジネスマッチングを実施しました。日本側からは9社 (徳間書店、ABC フロンティア、テレビ朝日、テレビ東京、幻冬舎、PHP 研究所、日本テレビ、早川書房、主婦と生活社) が参加しました。

19) グローバルビジネス展開に波及力が高いエンターテインメント賞レースノミネート支援企画

従来の企画開発支援、企画マーケット、ラボ参加に加え、米国アカデミー賞にノミネートされた日本作品の最優秀賞の受賞へ向けてのプロモーションを支援する目的で、アカデミー賞に正式ノミネートされた後のプロモーション活動を支援しました。短編ドキュメンタ

リー部門にノミネートされた『Instruments of a Beating Heart』
 (監督：山崎エマ、プロデューサー：エリック・ニアリ他) の
 NY、LA での上映会及びアカデミー会員向けの PR 活動を行いました。

【ビジネスマッチング実施スケジュール】

No.	事業名	期間	実施場所	ジャンル
1	ウディネ 国際共同製作支援	4/29～5/1	イタリア	映画
2	カンヌ スポットライトアジア (国際共同製作支援)	5/15～20	フランス	映画
3	国際共同製作および海外展開支援 First Cut Lab+ ピッチ	6/30～7/2	チェコ	映画
4	プチョン国際ファンタスティック映画祭 NAFF IT Project & レジデンスプログラム	7/4～9	韓国	映画
5	コ・フェスタ	7/4	日本	コンテンツ全般
6	gamescom ジャパンブース出展	8/21～25	ドイツ	ゲーム
7	Anime NYC ビジネスマッチング	8/23～25	アメリカ	音楽
8	Sakura Game Pitch	9/29	日本	ゲーム
9	釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market) 企画ピッチ	10/5～8	韓国	映画
10	釜山ストーリーマーケット (BSM) 出展&ピッチ	10/5～8	韓国	出版
No.	事業名	期間	実施場所	ジャンル
11	A-Japan ビジネスマッチング 第4弾	10/7～12月	アメリカ	IP映像化
12	ソングライティングキャンプ	10/21～25	タイ	音楽
13	ピリ-ロム ライブ@TIMM2024	11/6、7	日本	音楽
14	Asian Animation Summit (AAS) 企画ピッチ	11/19～21	台湾	アニメーション
(3)	国際共同製作および海外展開支援 First Cut Lab Japan 2024	12月～	オンライン	映画
15	ATF×TTB アニメーション ラボ&ピッチ	12/3～6	シンガポール	アニメーション
16	ロッテルダム国際映画祭 Rotterdam Lab 企画マーケット ピッチ	2/1～5	オランダ	映画
17	ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケット ビジネスマッチング	2/14～17	ドイツ	映画
18	韓国映像化IP ビジネスマッチング	2月中旬	韓国	IP映像化
19	グローバルビジネス展開に波及力が高いエンターテインメント賞レース/ミネート支援企画	2/5、10	アメリカ	映画

II. コ・フェスタの実施

「コ・フェスタ 2024 実行委員会」(7月4日、リアル開催)

コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベントの内容紹介、今年度の事業内容について説明を行い、イベント間の連携と情報

共有を図りました。

場所：野村カンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

出席者総数：42 名 内訳：委員 12 名（代理 8 名）、委員同伴者 15 名、イベント関係者 7 名

② コンテンツ活用促進事業

東京都

令和 6 年度予算における当該事業の事務局を受託しました。この事業では、コンテンツ企業と異業種企業（製造・医療・福祉・教育・商店街・小売・観光等）のニーズを踏まえ、コンテンツ活用ポイントを解説するセミナーを 8 月 22 日（木）・23 日（金）に実施しました。また、相互の連携を促進するためのマッチング交流会も 12 月 3 日（火）・4 日（水）の 2 日間にわたりオンラインにて実施し、過去最高となる 254 件の商談が成立しました。参加企業の満足度も高く、継続した開催を期待されています。

③ アーカイブ中核拠点形成モデル事業

国立映画アーカイブ

文化庁として 5 年、国立映画アーカイブに事業移管して 2 年目（合計 7 年目）となるアーカイブ中核拠点形成モデル事業を受託しました。

今年度の調査研究業務の対象地区は、東北、関西（京都）、関東（東京等）地区とし、映画看板絵師三瓶勝吉氏のアトリエ、円谷英二ミュージアム、須賀川特撮アーカイブセンター、ながぬまラボ（以上、福島県）、京都文化博物館、おもちゃ映画ミュージアム（以上、京都府）、国際放映、近代映画協会、調布市立図書館（以上、東京都）の調査を実施しました。

映画資料のデジタル化については、神戸映画資料館所蔵の戦前作品の映画ポスター 31 点（内 3 点修復あり）と木下恵介記念館所蔵の木下恵介旧蔵脚本 10 点を対象として実施しました。

映画資料所在地情報検索システム（JFROL）については、神戸映画資料館所蔵資料データが新規に連携し、また既存連携データの更新も行い、合計 7 館・約 27 万件の映画資料所蔵データが横断検索可能になりました。

「全国映画資料アーカイブサミット 2025」については、2025 年 1 月 24 日（金）に、デジタルアーカイブ構築における著作権についてのセミナー、映画分野の展覧会キュレーション、特撮資料のアーカイブに関する発表等の多様なプログラムを実施し、218 名（前年比+25 名）が参加しました。

映画資料調査の実証展示については、「日本映画史探検！《新東宝／国際放映》と《近代映画協会》の歩み」というタイトルで、2025 年 2 月 22 日～3 月 2 日の期間に、調布市文化会館たづくり北ギャラリーにて実施し、2731 名（同ギャラリーで同時開催の他団体の展示と共通の集計。前年比+約 300

名) が来場しました。

④ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査

国立映画アーカイブ

国立映画アーカイブが事業主管に変更となり 2 年目の事業となります。

事業運営事務局としてジャパン・フィルムコミッション(JFC)とコンソーシアムを組み、双方のネットワークを活かした運営を実施しました。

年間実績は以下の通りです。

- I. 全国ロケーションデータベース (JL-DB) を搭載する Web サーバの基本ソフト(OS)類の更新時期となり、国立映画アーカイブの上部組織である国立美術館情報セキュリティ担当の指導のもと、最新の OS 類への更新業務を実施しました。
- II. ロケ地情報の登録と更新促進に力点を置き、JFC と共同で実施している全国ロケ地フェア等の複数のイベントで、JL-DB の登録者たる全国の FC にヒアリングと登録・更新への啓蒙を実施しました。
- III. JL-DB システムの利用促進策として以下 3 点を実施しました。
 - 1) JL-DB のロケ地データの登録数拡大と更新活発化を目的とし、これから JL-DB を利用するフィルムコミッションスタッフ向けに、JL-DB の事業説明やシステム利用をわかりやすく記載した JL-DB ハンドブックを作成しました。
 - 2) GoogleMaps アースビュー機能との連携開発を実施し、JL-DB から 3D 地図を表示できるようにしました。
 - 3) ロケ地情報増加に伴い、検索精度の向上を目指し JL-DB の検索プログラムを一部改修しました。
- IV. 11 月～2 月 JFC ブロック研修 (10 ヶ所)、12 月、2 月のロケエキスパートイベント (2 ヶ所)、1 月 23 日全国ロケ地フェア、1 月 24 日海外制作者セミナーを実施しました。

⑤ 令和 6 年度 文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)

独立行政法人日本芸術文化振興会 (助成金含む事業総額 : 6.2 億円)

本事業は、全国における大規模で質の高い公演等の実施や配信を支援することを通じて、国内における文化的な地域格差を解消するとともに、統括団体による活動拠点の形成を促進することを目的として、文化芸術統括団体による有料公演に対する助成を行う事業です。

文化庁、芸文振との連絡調整を行いながら、事務局として適切に事業運営

を行いました。

1年間を通じて、ほぼ想定通りの進捗で運営を行った結果、提出期日となる1月31日までに全団体から実績報告を回収し、年度内に全団体に額の確定通知書を発送することができました。

⑥ 活字文化のグローバル発信・普及事業

文化庁

文化庁から当該事業を受託し、その中でいくつかの事業を実施しています。助成金事業に関しては、数多くの応募の中から企画書の翻訳・作成：102作品、サンプルの翻訳：30作品を採択しました。なお、採択事業者数は45社でした。すでにいくつかの採択作品の海外翻訳出版が締結されています。

日本の活字文化のプロモーションの一環としてフランクフルト・ブックフェアにおいて、以下の施策を実施しました。

- ・ 日本マンガ市場に関するセミナー
- ・ 日本マンガ4作品の展示
- ・ マンガ翻訳に関するトークセッション
- ・ ドイツ出版社との商談会

第9回翻訳コンクールに関しては、現代文学部門（英語）/現代文学部門（ドイツ語）/古典文学部門（英語）において、それぞれ受賞者が決定しました。2月22日に「BUNGAKU DAYS 2025 SPRING」と題した表彰式と記念シンポジウムを初めて京都にて開催しました。第10回翻訳コンクールの開催発表も1月に行っています。

また、全3回の出版社向け海外展開セミナーやマンガの調査に関するセミナーも実施しました。

⑦ 海賊版対策事業（日越著作権協力事業）

文化庁

日本の権利者のベトナムにおける権利行使、対価還元を支援し、ひいては両国の文化交流の促進に資するため、ベトナムの著作権担当部局である文化・スポーツ・観光省職員等を招聘し、我が国の著作権団関連団体等による訪日研修並びに政府間協議を実施することで、両国における著作権侵害対策、正規版の流通促進を強化するために協議・セミナーを開催しました。

タイトル：日越著作権協力事業

招聘期間：2024年7月21日（日）～25日（木）

招聘場所：東京、日本

主催：文化庁

運営：VIPO

実施内容：

7月22日(月)

9:30-12:00 CMO研修① 会場：JASRAC

・JASRACの著作権管理事業と演奏・放送許諾／講師：JASRAC

13:30-15:00 CMO研修② 会場：芸能花伝舎

・レコードの権利保護と集中管理／講師：日本レコード協会

15:10-16:40 CMO研修③ 会場：同上

・実演家の権利の集中管理／講師：CPRA

16:50-18:20 CMO研修④ 会場：同上

・映像実演の権利処理 日本の放送番組の場合／講師：aRma

7月23日(火)

10:00-13:00 会場：集英社・特別会議室

・正規版流通促進（海賊版対策）・普及啓発に関する意見交換

15:00-19:00 文化拠点スタディビジット

・訪問先① 集英社マンガアートヘリテージ／麻布台ヒルズ

・訪問先② team Lab Borderless／麻布台ヒルズ

・訪問先③ CYBERSPACE SHIBUYA／渋谷 PARCO

7月24日(水)

10:00-13:00 会場：文部科学省

・第1回 日越著作権協議（政府間協議）

（3）自主事業

① VIPO アカデミー

2015年5月の開講より、今年度で10年目を迎えました。

今年度は合計10コースを実施して342名が参加しました。

常にアンケートやヒアリングを実施し、参加者ニーズに合わせて、講座のリニューアルや新規講座の検討等を行っています。

大きな変更としては、今年度は3つのコースでオンライン開催を減らし、会場開催を増やしました。

また、新講座として、アンケート等で要望が多かった社内新規事業の立ち上げにフォーカスした「ニュービジネス・デベロップメントコース～新規事業のはじめ方～」を11月に開講。また、同じく、「グローバルビジネスコース～交渉・コミュニケーション編～」をリニューアルし、文化の違いがビジネススタイルにどう影響するのかを学ぶ「異文化理解」講座をプラ

スしたコースを開講しました。

一方、今年で12回目となった「業界研究ベーシックコース」では、取り上げるコンテンツのジャンルやテーマ、登壇者等の見直しを行い、結果、一括受講、単発受講共に参加者数が増え、1回平均参加者数が昨年より10名アップしました。(30名⇒40名)

10年間の総受講企業数は156社、総受講者数は1,000人(ベーシックの単発受講者数除く)となりました。

I. 春期(5月～8月)の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者7名

「プロジェクトリーダーコース」参加者15名

「グローバルビジネスコース(プレゼンテーション編)」参加者4名

II. 秋期(9月～12月)の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者10名

「プロジェクトリーダーコース」参加者9名

「リーガル・エッセンシャルコース(基礎編)」参加者6名

「リーガル・エッセンシャルコース(実践編)」参加者6名

「ニュービジネス・デベロップメントコース～新規事業のはじめ方～」
参加者3名

「グローバルビジネスコース(異文化理解力と交渉力強化編)」参加者3名

III. 冬期(1月～3月)

「業界研究ベーシックコース」(1-3月/計7回)参加者279名(延べ人数)

IV. インハウス研修他

東映様向け海外プロデューサー研修(グローバル展開事業部と共催):

1-3月実施

・全8回の講義+個別フィードバック

・参加者:5名(20-30代のプロデューサー)

② セミナー・ワークショップ事業(有料)

I. 「映像国際共同製作 北京市政府方針紹介セミナー」

(4月17日、ハイブリッド開催)

登壇者：北京アニメゲーム産業協会事務局長 劉春剛氏
テンセント株式会社テンセントビデオグループ アニメセンター
プロデューサー 樊卿氏
参加者 75 名（リアル 26 名、オンライン 49 名）

II. 「福井健策弁護士法律セミナー 放送コンテンツの著作権と権利処理」

（5 月 22 日、リアル開催）
講師：福井健策氏 弁護士
参加者：40 名 （定員 40 名）

III. 「アクターズワークショップ」

（6 月 19 日、26 日、リアル開催）
講師：成島出氏 映画監督／脚本家
参加者：18 名

IV. 「漫画をアニメのシナリオに脚色する実践講座」

（9 月 5 日、12 日、リアル開催）
講師：小林雄次氏 脚本家
参加者：12 名

V. Netflix 寄付講座 慶応大学学生対象「映画プロデューサー養成講座基礎編」

（9 月 26 日、27 日、リアル開催）
講師：安藤紘平氏 早稲田大学名誉教授
ゲスト：橋口亮輔氏 映画監督
参加者：17 名

VI. 「ハリウッドフロントランナーの視点 “世界で注目を集めるアジアの物語。その企画のコアとなる訴求力とは？” ～Apple TV+「Pachinko パチンコ」ショーランナー、スー・ヒュー氏に聞く企画開発の手法～」セミナー

（9 月 27 日、オンライン開催）
講師：スー・ヒュー氏「Pachinko パチンコ」エグゼクティブ・プロデューサー
参加者：75 名

VII. 映画プロデューサー養成講座 基礎編

(11月28日、29日、リアル開催)

講師：安藤紘平氏 早稲田大学名誉教授

ゲスト：橋口亮輔氏 映画監督

参加者：13名

VIII. 「福井健策弁護士法律セミナー 2時間で学ぶ AIと権利と法務の最前線」

(12月13日、リアル開催)

講師：福井健策氏 弁護士

参加者：40名 (定員40名)

(参加総数290名)

③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatoryへ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatoryへの入学が正式に決定した場合、“T.Y.奨学金制度”がAFI Conservatoryの判断により給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFIへ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

- ・VIPO内サイトにおいて募集告知及び会員宛に告知メール配信(7月)。
- ・映像・演劇関連2サイトに告知投稿(8月)。
- ・募集前後に本年度問い合わせ2件あり(7月、8月)。
- ・締め切りは9月24日。本年度は応募が2件あったが、推薦者なしとなった。

④ 情報サービス事業

I. Japan Creator Bank (略称：JCB)

Japan Creator Bankは2025年3月末をもって閉鎖しました。

II. Japan Book Bank (略称：JBB)

今年度を通して 20 件（フランス：4 件、アメリカ・ロシア：各 3 件、イタリア・ドイツ：各 2 件、インド・インドネシア・スペイン・ポーランド、イギリス・ウクライナ：各 1 件）の翻訳出版契約が成立しました。文芸と児童書の成約が各 7 件と最も多く、次いで実用書 4 件、コミック 2 件となっています。

2 か月に一度更新するトップページの特集にも毎回多くの出版社が参加し、登録出版物の幅も広がっており、国内出版社の日常の海外向けカタログとして利用されていることが伺えます。

国内出版社だけでなくエージェントの登録も増え、現在は参加 194 社、出版物登録 7263 件、ID 登録者も 1,206 人超に成長しています。

⑤ VIPO Film Lab 事業

グローバルな視野を持ち国内外で活躍できるプロデューサー、監督、脚本家など業界プロフェッショナルを育成する場として、実践トレーニング、ワークショップ、オンライン講座など、目的別に様々な人材トレーニング等を提供する事業です。

<https://filmlab.vipo.or.jp/>

I. 国際プロデューサーコース（継続）

【開催時期】2024 年 9 月～2025 年 1 月（全 10 回）

※対面・オンライン開催

【参加者】会社所属・インディペンデント・フリーランスのプロデューサー等、国際的に活躍を志望するプロデューサー 23 名

【講義内容】

- ◆第 1 回：9 月 30 日（月）「映画祭とは、映画祭の活用方法」
- ◆第 2 回：11 月 26 日（火）「国際共同製作概略」
- ◆第 3 回：10 月 24 日（木）「海外 PR の役割」
- ◆第 4 回：10 月 31 日（木）「セールスエージェントの役割」
- ◆第 5 回：11 月 7 日（木）「海外の企画マーケットについて」
- ◆第 6 回：11 月 14 日（木）「アジアの国際共同製作支援について」
- ◆第 7 回：12 月 5 日（木）「海外向け企画ピッチングについて」
- ◆第 8 回：12 月 12 日（木）「国際映画製作のケーススタディ」
- ◆第 9 回：2025 年 1 月 23 日（木）「国際共同製作におけるリーガルリテラシー」
- ◆第 10 回：2025 年 1 月 28 日（火）「脚本開発における戦略とツール」

II. 映画の企画脚本講座（継続）

【開催時期】 10/16, 10/17（2 日間）

【参加者】 映画プロデューサー、監督、シナリオライターなど 11 名

【内容】 オリジナル映画企画案をブラッシュアップして、いかに良い映画の脚本にしていくかということに主眼を置いた講座を現役の脚本家を講師に迎え実施。

III. 俳優のためのセルフ・テープオーディション対策講座(新規)

【開催時期】 10/27, 11/3, 11/4（3 日間）

【参加者】 俳優 12 名

【内容】 実力があるのに手法・アプローチの仕方がわからない日本の俳優たちが隠れた才能を開花させるためのインターナショナルなワークショップを世界的に活躍する講師を迎え実施。

IV. 監督コース（継続）

【開催時期】 2025 年 3/10～14（5 日間）

1) 演出ワークショップ

【参加人数】 4 名

2) 演出公開講座

【参加人数】 45 名

【内容】 フランス国立映画学校(FEMIS)をはじめ世界中で教鞭をとる講師を迎え、世界に通用する映画表現や専門知識をワークショップ形式でレクチャー

V. 映画の企画開発講座（継続）

【開催時期】 2025 年 3/18, 3/19（2 日間）

【参加者】 10 名

【内容】 映画の企画を作成することに主眼を置いた講座をリアル開催。受講者が自分の企画をどのような作品にしたいかを提案し、現役で活躍する脚本家、そして演出家を講師として迎え、講評・アドバイスによってブラッシュアップを実施。

VI. NY オンライン脚本ワークショップ（継続）

1) ワークショップ

【開催時期】 2024 年 12 月～2024 年 3 月（対面およびオンライン）

【参加者】 監督 3 名

2) 公開脚本講座

【開催時期】2024年12月19日（木）

【参加者】監督、プロデューサー、脚本家 41 名

【内容】ニューヨークで活躍する脚本講師や映画プロデューサーを迎え、対面およびオンラインでの集中的な脚本指導やフィードバックを通して脚本のさらなるブラッシュアップを図り、映画化を目的とした実践的な内容。

VII. リスペクト・トレーニング

【開催時期】2024年9月～11月（全9回）

【参加者】コンテンツ業界に従事されていて、「リスペクト・トレーニング」を受講したことがない方（各回定員 40 名）

【内容】日本のエンターテインメント業界の労働環境改善に向けた取り組みとして実施している「リスペクト・トレーニング」を広く多くの方に認知していただくために、映像作品の制作に直接関わらない方々も参加できるかたちで実施。

⑥ カンヌ 監督週間 in Tokyo 2024

2023年にアジア初の開催となり好評を博した「カンヌ監督週間 in Tokyo」を本年度も開催。2024年12月8日（日）～19日（木）の12日間、ヒューマントラストシネマ渋谷にてカンヌ国際映画祭「監督週間 2024」に選出された11作品を特集上映しました。今回もアーティスティック・ディレクターのジュリアン・レジ氏と『THIS LIFE OF MINE／これが私の人生』監督である故ソフィー・フィリエールの娘：アガーテ・ボニゼール氏、息子：アダム・ボニゼール氏が来日し、トークイベントを開催。邦画3作品も監督等が登壇したトークイベントを開催し、大盛況となりました。

「カンヌ監督週間 in Tokyo 2024」上映作品（全11作品）

『THIS LIFE OF MINE／これが私の人生』 監督：ソフィー・フィリエール

『ナミビアの砂漠』 監督：山中瑤子

『EAST OF NOON／イースト・オブ・ヌーン』 監督：ハラ・エルクシ

『EAT THE NIGHT／イート・ザ・ナイト』 監督：キャロリーヌ・ポギ&ジョナサン・ヴィネル

『GAZER／ゲイザー』 監督：ライアン・J・スローン

『化け猫あんずちゃん』 監督：久野遥子、山下敦弘

『GOOD ONE／グッド・ワン』 監督：インディア・ドナルドソン

『MONGREL／モングレール（白衣蒼狗）』 監督：チャン・ウェイリャン
 （共同監督）イン・ヨウチャオ
 『THE OTHER WAY AROUND／ジ・アザー・ウェイ・アラウンド』
 監督：ホナス・トルエバ
 『UNIVERSAL LANGUAGE／ユニバーサル・ランゲージ（原題）』
 監督：マシュー・ランキン
 山村浩二監督短編集『とても短い』 監督：山村浩二

⑦ VIPO Film Award

提携先の企画マーケットに選出された企画を審査し、賞金賞である VIPO アワードを授与する自主事業です。今年度の提携先企画マーケットは、7 月上旬開催の「NAFF It Program／プチョン国際ファンタスティック映画祭」、10 月上旬開催の「Asian Project Market（APM）／釜山国際映画祭」、そして、2 月上旬開催の「CineMart／ロッテルダム国際映画祭（IFFR）」で、外部審査員と共に授賞者を決定しました。今年度の結果は以下の通り：

■プチョン NAFF It Project

『Naga Swim Upstream』（タイ）監督：Patiparn BOONTARIG、プロデューサー：Napakarn BOONTARIG、Supatcha THIPSENA

■釜山 APM

『Crocodile Rock』（シンガポール・アメリカ）監督：Kirsten TAN、プロデューサー：TAN Si En

■ロッテルダム CineMart

『Four Seasons in Java』（インドネシア、シンガポール）監督：Kamila Andini、プロデューサー：Ifa Isfansyah（Forka Films）

⑧ 交流促進事業

I. 海外の同様の機関等と交流の推進

- 1) 2024 年 10 月上旬、釜山国際映画祭の時期に合わせ市井事務局長ほか VIPO スタッフが渡韓し、映画振興委員会（KOFIC）ハン・サンジュン委員長（2024 年 6 月就任）との面会を実施しました。
 両国産業の更なる発展のためにパートナーシップを強化していくことを改めてこの会合で確認すると共に具体案の意見交換も行いました。
 また釜山国際映画祭の併設マーケット Asian Content & Film Market（ACFM）に新設されたアジアの共同製作を目指すプロデューサーのためのプラットフォーム“プロデューサーハブ”のクロージング・レセプ

ションを VIPO と KOFIC にて共催し、様々な国のプロデューサーとのネットワークワーキングの場を提供、KOFIC との新たな協力関係の第一歩を踏み出しました。

2024 年 10 月下旬、東京で開催された東京国際映画祭併設マーケット TIFFCOM への出展のため、KOFIC スタッフが来日をしており、打合せを実施しました。

10 月以降、オンラインでの KOFIC との打合せを複数実施、次年度以降の取組について協議中。2025 年については、釜山国際映画祭（9 月）と東京国際映画祭（10 月）のタイミングで製作者の交流を実施予定。2026 年以降についても具体的な内容を引き続き協議中。

（４）組織運営

① 会員の状況

I. 新規入会

個人会員 0 名 法人会員 1 社 賛助会員 0 社

II. 退会

個人会員 0 名 法人会員 4 社 賛助会員 0 社

III. 現在の状況

- ・会員数：個人会員 1 名 法人会員 98 社 賛助会員 4 社
- ・会費及び入会金 入金額(予定含む) 46,430 千円（昨年比 180 千円減）

② 通常総会、理事会、幹事理事会

本年の通常総会、理事会、幹事理事会はいずれも参加者の利便性を考慮に入れ、実参加に加えオンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

I. 通常総会

- ・本年度は令和 6 年 6 月 24 日に通常総会を開催し、令和 5 年度の事業報告・会計報告、令和 6 年度の事業計画・予算・役員の選任等について決議をいただきました。

II. 理事会

- ・令和 6 年 6 月 6 日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。
- ・令和 6 年 6 月 24 日に開催し、幹事理事、理事長、副理事長互選につ

いて決議いただきました。

- ・令和6年12月6日に開催し、中間事業報告を行うと共に、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

III. 幹事理事会

- ・令和6年4月5日に開催し、令和5年度の事業報告(案)及び決算見通しの報告を行いました。また、令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)の報告を行いました。
- ・令和6年6月6日に開催し、通常総会の審議事項及び理事会の審議事項について報告を行いました。
- ・令和6年12月6日に開催し、中間事業報告を行うと共に、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

IV. 会員交流会

新型コロナ禍もあり開催を見合わせておりましたが、本年度は6月24日の通常総会后、2019年以来5年ぶりに開催致しました。

当機構会員・役員、関係省庁（内閣府知的財産戦略推進事務局、総務省、外務省、文化庁、経済産業省）、関係団体・企業の皆様をお招きして交流会を開催し多数のご参加を頂きました。本会では同日に行われた通常総会のご報告をするとともにご出席の皆様の交流を深めていただきました。

(5) 広報活動

① 「VIPO 年間活動報告書 2023」の発行

「VIPO 年間活動報告書 2023」（36 ページ）を6月24日付にて発行し、会員及び役員に配布しました。事業・広報活動等において“対面”で説明する際に活用しております。海外向けとしては、英語サイトのトップページのビジュアルイメージを刷新しました。事業内容の更新は随時行うようにしています。海外のイベント等で配布する目的で、英語サイトへ誘導するQRコード入りのポストカードを作成しました。

② 「ndjc2024 合評上映会」のプレス対応

2025年2月27日に実施された「ndjc2024 合評上映会」の事前広報活動として、メディアの向けのプレスリリース配信と個別の誘致連絡を実施しました。また、当日はプレス受付対応と、事後のメディアフォローアップを行いました。

③ ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。

2016 年 9 月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

■2024 年 4 月

創立 100 周年にむけた「TOHO VISION 2032」とは ～Entertainment for YOU 世界中のお客様に感動を～ （2023 年 11 月実施 VIPO アカデミー「コーポレートリーダーコース」経営者講演より再構成）

■2024 年 5 月

〈『碁盤斬り』公開記念！〉映像製作者必読！ 脚本家・加藤正人が語る「脚本は設計図。徹底的な取材をもとにオリジナル脚本を書く脚本家が必要！」 〈前編〉 〈後編〉

■2024 年 12 月

脈々と「作品を作り続ける」東映がマルチユースというビジネスモデルにたどり着いた背景とこれからのビジョン （2024 年 8 月実施 VIPO アカデミー「コーポレートリーダーコース」経営者講演より再構成）

■2025 年 1 月

内閣府に聞く——「新たなクールジャパン戦略」で再設定されたチャレンジングな目標と、基幹産業として位置づけられたコンテンツ産業に求められるもの

■2025 年 3 月

社会に対して価値を提供しつづける。「クリエイティブでありたい」という思いにかけた ビクターエンタテインメントが 2030 年に目指す姿とは— （2024 年 11 月実施 VIPO アカデミー「コーポレートリーダーコース」経営者講演より再構成）

④ VIPO 会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIPO の活動報告を毎月定例で発信する「VIPO プレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIPO ニュース」を継続的

に発信しました。

メールニュースの配信先数（コンテンツ事業者）は、約 11,802 件（2025 年 3 月 18 日現在）です。

⑤ 事業活動の記事露出

主にプレスリリース配信などを通し、プレスに対して事業活動の最新情報を随時発信することで、業界誌・紙を中心にパブリシティを獲得いたしました。VIP0 または事業活動では、今年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月 14 日時点）は、約 1340 件の記事掲載がありました。

以上